

風土記の丘の花だより¹²⁸

今、そしてこれから見られる植物(2022年4月2日)

新年度が始まりました。新しい生活の始まりを春の花たちが祝福しています。(何か、入学式での校長先生の挨拶みたいですね) スミレがたくさん咲き始めました。今いちばん目立つのは、タチツボスミレの仲間です。普通の(?)スミレよりも色が薄く、水色っぽい感じです。それに似て少し色が濃く、



花の中の白い部分がはっきりしているのがニオイタチツボスミレ、葉が細長いのがナガバノタチツボスミレですが、そんなことを気にしながら歩いても楽しくありませんね。散歩しながらなら、みんなタチツボスミレでいいんじゃないですか?と言いながら、写真はニオイタチツボスミレです。



本館正面の公衆電話ボックス辺りのニワウメが小さなピンク色の花を咲かせています。古い時代に中国からもたらされたということですが、学名は *Prunus japonica*、しっかり「日本の」と付いています。もうすっかり日本の花木になっていることですね。万葉集にも「はねず」という名前が出てきます。小早川家の庭などにも植えられています。



竪穴住居の東側、道を挟んだところの上を見あげてもらおうと、真紅の花が見えます。首が痛いですが、我慢して見あげてください。ハナノキの花です。この木の分布は限られていますが、開館当時の職員の方がここに植えてくれたのでしょうか。とても小さな花ですが、たくさん咲くので全体が真っ赤に見えるのです。カエデの仲間、今ではムクロジ科です。



アオキの花が咲いています。左が雌花、真ん中に一つだけぽつんとした物があります。右が雄花、こっちは4つあります。この花の雌雄はとても見分けやすいですね。また、雌花はまだ赤い実が残っているのに咲いています。花と実を同時に楽しめる木も珍しいですね。他にも春の花がいっぱいです。歩きながら、探してみてください。 松下